

あぐり最前線



土壌分析をしましょう！

—コスト低減に向けて—

J Aでは、肥料の過剰施肥による無駄をなくしコスト低減に繋げるため、土壌分析を毎月実施しています。分析を希望される方は、約1合程度(20g)を採土し、必ず土壌を乾燥させてから袋に入れ、住所氏名、TELと、水稲・野菜(キャベツ、ハクサイ、等)・果樹(ミカン、カキ、等)など品目を記入して、7月19日(金)までに各営農センターへ「持参ください。分析結果は8月中旬頃に」ご連絡いたします。

市場出荷休日カレンダー (野菜・果樹)

7月	日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5	6
	7	8	9	10	11	12	13
	14	15	16	17	18	19	20
	21	22	23	24	25	26	27
	28	29	30	31			

8月	日	月	火	水	木	金	土
					1	2	3
	4	5	6	7	8	9	10
	11	12	13	14	15	16	17
	18	19	20	21	22	23	24
	25	26	27	28	29	30	31

×は出荷できない日 □は日曜・祝日等

※防除薬剤のあとの数字は、安全使用基準で、(収穫何日前まで使用可能か/通算使用可能回数)を表しています。農薬は農薬安全使用基準を守り、正しく適期に防除してください。

例)表記が(14日/2回)の場合:収穫14日前までに2回使用可能



●中干し

7月上旬頃から『中干し』の時期です。倒伏させず、目標茎数を確保して、良品質の米を生産する重要な作業となります。

《中干しの効果》

- ・茎数が過剰に増えるのを防ぐ。
- ・株元を硬くし倒伏を防ぐ。
- ・土壌中に酸素を供給し根腐れを防止。
- ・田面を硬くし収穫作業を容易にする。
- ・丈夫な稲作りや収穫作業の能率向上のために欠かせない作業です。

《中干しを始める目安》

1株あたりの茎数が20本程度になった頃で、田植えから約30〜40日後から始

め、田面に軽くヒビが入るまで行います。なお、水稲の生育や水田の特性により、次のように強弱をつけましょう。

◇茎数が多い、葉色が濃い、排水の悪い水田、粘土質の水田では土面に1〜2cmのヒビが入るまで強めに干します。

◇茎数が少ない、葉色が薄い、水保ちの悪い水田、砂質土の水田では土面に細かいヒビが入る程度とします。

《中干し以降の水管理》

中干し後、急激に湛水状態にすると根傷みますので、走り水を入れて水に慣らしてから本格的に入水します。

◎幼穂形成期〜出穂期にかけての水管理
この時期は、稲にとって最も水が必要な時期です。幼穂形成期〜穂ばらみ期には間断かんがいをを行い、出穂期は水をたっぷり入れるようにしましょう。

●穂肥

7月中旬頃より早生品種から施用します。施用日の基準は栽培指針を参考に、品種、葉色を見ながら増減してください。

●病害虫防除

◎いもち病

比較的低温で曇雨天が続く場合や、窒素過多で葉色が濃い場合に発生が多くなります。葉いもちを放置すると空気伝染で拡大し、株のずりこみ症状や穂いもちが多発し減収となります。病勢が進展し

てからの防除は困難なので、初期防除を徹底しましょう。また、補植用置き苗が発生源の1つとなるので、必ず処分しましょう。

◎紋枯病

梅雨以降高温が続くと発生します。窒素過多や密植は発病を助長するので注意しましょう。病斑は水際付近の茎から上

に向かって拡大するので、株元まで薬剤がかかるように散布することが重要です。

《液剤》

▽7月下旬
※早生品種
・トレボンEW 100倍 (14日/3回)
*いもち病・紋枯病発生のおそれがある場合は「アミスターエイト 100倍 (14日/3回)」を加用して下さい。

※中晩生品種
・トレボンEW 100倍 (14日/3回)

・アミスターエイト 100倍 (14日/3回)
▽7月中〜下旬 ※早生・中晩生
《豆つぶ剤》
・ワイドパンチ豆つぶ 250g/10a (35日/1回)

●除草

《とりこぼし雑草対策》
次のいずれかの薬剤で防除しましょう。
・サンパンチ1キ口(粒) 1kg/10a
(移植後15日〜ノビエ3.5葉期但し収穫60日前まで/1回) *湛水散布
・クリンチャーバスマE(液) 薬量1000ml・希釈水量70〜100ℓ/10a
(移植後15日〜ノビエ5葉期但し、収穫50日前まで/2回) *落水散布



●収穫

新ショウガは鮮度が重要です。収穫したショウガを畑で乾燥させすぎると、汚れが落ちにくくなり品質低下にもつながります。収穫後は布などで覆うか、散水して早めに水洗いするようにしましょう。



換気と灌水

通風が悪く湿度が上昇すると紋枯病が発生しやすくなり、塊茎が変色します。ハウスのサイドを開けたり、スソ張りビニールを取り除いたりして、大幅に換気しましょう。換気量が増加すると今まで以上に乾きやすいため、灌水量を増やし、乾燥に注意しましょう。

病害虫防除

- アワノメイガ(10月頃まで発生)
- パダンSG(容) 1500倍(7日/5回)
- フェニックス(顆) 200〜400倍(前日/2回)
- ◎紋枯病
- バリダシン(液5) 800倍(14日/4回)
- モンカト(フ40) 200倍(3日/6回)

根茎腐敗病

根茎腐敗病が発生したら被害株を早めに除去し、必ず薬剤散布してください。

- ユニフォーム(粒) 18kg/10a(30日/3回) *生育期土壌表面散布
- ランマン(フ) 500〜1000倍(2〜3日/m² *土壌灌注)(30日/3回)

収穫前日数には十分注意しましょう。また、塊茎の肥大が進んでいけば前倒し出荷をするようにしてください。



通路をカラカラに乾燥させないで!

尻腐れ果、日焼け果

この時期になると尻腐れ果、日焼け果の発生が多くなります。尻腐れ果は、①地温が高い、②通路が乾

燥する、③チッソやリン酸、カリの過多により石灰分が果実で吸収されない。または、根傷みも原因の一つです。対策として通路をカラカラに乾燥させないで、散水して土壌全面に水がしみ込むようにします。また、石灰分の補給に葉面散布剤としてCa液肥500倍液を散布してください。

日焼け果は、曇雨天が続いた後の晴天時に発生します。防止には、根が水分を十分吸収できるように通路への散水が必要です。

整枝

各主枝の生育バランスを図りながら混み合う部分の小枝や徒長枝を整枝すると、ふところまで日光がよく当たり、通風も良くなります。また、薬剤散布時に薬剤が十分樹にかかり防除効果も上がります。少々強い整枝でも減収しません。



収穫

抽苔の発生や腐りなどの問題を回避するために適期収穫を心掛けましょう。7月上旬以降の収穫は、長日・高温による抽苔の発生や、梅雨時期の大雨による腐りの発生を助長します。

病害虫防除

- ◎軟腐病
- 細菌性の病害で、高温・多湿条件下で発生します。被害株(葉や根)は圃場外に持ち出し処分しましょう。また、次作に向けてクロルピクリンを含む土壌消毒剤(クロピク80、ソイリオン、ダブルストップ)を処理してください。



追肥

- ニューパワーユキキ262 40kg/10a
- または
- BMスーパー野菜君(60kg/10a)

*時期や量は、株の生育や気象、土壌条件により加減してください。

病害虫防除

- ◎ハダニ類
- 高温・乾燥により発生しやすくなります。初期防除を徹底するとともに、抵抗性をつけたいよう、必ずローテーション防除してください。
- サンマイト(フ) 1000〜1500倍(前日/2回)
- コテツ(フ) 200倍(前日/2回)
- ◎炭そ病

多雨期に発生しやすいので、土壌の排水対策を徹底してください。発生すると被害が大きくなるので、予防的な散布を心掛けましょう。

- 【予防】ダコニール1000 1000倍(前日/4回)
- 【発生初期】ストロビー(フ) 3000倍(3日/3回)



播種

生育を揃えるために播種前にムラのないうよう灌水し、覆土はできるだけ薄くします。また、夏期高温期の播種は、発芽不良や苗木枯病が発生しやすいため、播

種後、土壌表層に卵殻エースを施用しましょう。土壌表層の温度を下げ、石灰の補給にもなります。

灌水

播種後は十分に灌水し、発芽までは乾燥に注意しましょう。ただし、過湿になると立枯病が発生するので注意が必要です。また、収穫前7〜10日の灌水はズルケの発生を助長するため、灌水を止めましょう。



播種

本葉1〜2枚までに乾燥すると、生育不良や不揃いの原因となりますので、播種前にムラのないよう灌水し、覆土はできるだけ薄くしてください。

夏期栽培では高温で葉縁が裏側に巻くカッピングが発生しやすいので、換気と40%程度の遮光資材で遮光しましょう。

灌水

灌水は午前中に行いましょう。夕方や曇天時の灌水は軟弱徒長の原因となります。収穫前7〜10日は灌水しないでください。



摘葉・灌水

茎葉が混んでくると落花や不良果が生じるため老化や病気になった葉を摘葉してください。土の乾燥具合を見て2〜3日に1回灌水を行ってください。

病害虫防除

- ▽7月中旬
- ◎落葉病・炭そ病
- エムダイファー(水) 600倍(45日/2回)
- ◎アザミウマ類・カイガラムシ類
- モスピラン(顆) 200倍(前日/3回)
- 早期出荷対策(白マルチの場合)
- 刀根は7月下旬より敷設
- 平核無は8月上旬より敷設



7月は生理落下が終了します。着果の状態に合わせた粗摘果を実施しましょう。

極早生の温州ミカンなど、着果の多い樹は早期に摘果しましょう。また、中晩柑類の着果過多樹や生理落下が少ない「はるみ」においても早期摘果を徹底し初期肥大を促します。

灌水

梅雨明け後、乾燥するような場合は灌水が必要です。特に中晩柑類では、初期肥大の確保や酸高の防止のため、早めに灌水しましょう。目安は、果実が日中柔らかく朝になると硬くなっている場合は数日後に灌水が必要で、朝になっても柔らかい場合は早急に灌水してください。

除草剤

- ラウンドアップマックスロード 200倍(7日/5回)
- または
- タッチダウンIQ 200倍(5日/3回)
- 熟期促進(満開70日後)
- ファイガロン(乳) 300倍(14日/2回)
- *10aあたり300g



ナス

晴天日が続く葉が萎れる場合は、早期に畝間灌水を行ってください。盛夏期は夜間に行ってください。

病害虫防除

- ▽7月中旬
- ◎うどんこ病・コナジラミ類・チャノホコリダニ
- パルミン 200倍(前日/3回)
- オオタバコガ・ハスモンヨトウ・ハモグリバエ類・ミナミキイロアザミウマ・プレオ(フ) 1000倍(前日/4回)
- ◎チャノホコリダニ・ハダニ類
- ダブルフェース(フ) 200倍(前日/1回)



ウメ

収穫作業も終盤を迎えます。収穫後は、お礼肥の施用・灌水を行います。

お礼肥

果実生産に消耗した樹体栄養の回復を

図るため、エコレット266(50kg/10a)を施肥してください。

灌水

ウメは浅根性なので、高温乾燥に影響を受けやすく、土壌が乾燥すると早期落葉を招き翌年の開花や結実に悪影響を及ぼします。晴天日が7〜10日続いた場合は、1樹あたり100ℓ程度灌水してください。



モモ

早生品種から収穫が始まります。熱度の進行に注意し、適期収穫に努めましょう。

除袋

収穫の5〜10日前に行います。果頂部と縫合線部を除き、果皮色が白っぽくなる頃が目安です。除袋以後、曇雨天が続くと予想される場合には、除袋を2〜3日早めて着色向上を図ります。

反射マルチの敷設

樹の内部や下枝の果実の着色向上を目的に、除袋2〜3日後、果実の先端が少し着色し始めた頃に敷設します。

病害虫防除

- ▽収穫前
- ◎灰星病・ホモプシス腐敗病
- ベルコート(水) 1000倍(前日/3回)
- ◎シンクイムシ類・アブラムシ類・モモナハモグリガ
- ロディー(水) 1000倍(前日/5回)
- ◎ハダニ類
- ダニトロン(フ) 200倍(7日/1回)
- ◎せん孔細菌病
- バリダシン(液5) 500倍(7日/4回)
- ▽7月上旬〜中旬 ※中・晩生種



イチジク

イチジクは乾燥に弱く、高温乾燥状態になると葉がしおれ、葉焼けしやすくなります。3日以上晴天が続く場合は、灌水してください。

摘芯

葉や新梢の生育に費やされていた養分を果実の生育に向けるよう摘芯します。7月中下旬で葉数が18枚以上の頃に行いましょう。また、生育不良な結果枝については摘芯しないでください。

病害虫防除

- ▽7月上旬(梅雨明け後)
- ◎さび病・そうか病
- トリフミン(水) 200倍(前日/3回)
- ◎アザミウマ類・キボシカミキリ
- モスピラン(顆) 200倍(前日/3回)



摘果

傷果・奇形果・小玉果等を摘果して、果実の肥大促進を図りましょう。

病害虫防除

- ▽7月中旬 ※富有柿

みんなで取り組む!!

水稻のジャンボタニシ対策

地域ぐるみ防除（一斉捕殺）

一斉捕殺作業

8月17日（土）、18日（日）

和歌山市内全域

注1) 一斉捕殺時のジャンボタニシは、分別収集による指定ゴミ袋にて回収させていただきます。

注2) 上記日程において、地域ぐるみでジャンボタニシを捕殺していただいた場合は1袋(10kgが目安)につき500円の助成をさせていただきます。上記日程の日曜日・正午までに各営農センターまでお持ち下さい。

なお、助成を希望される場合は必ず事前に各営農センターまでご連絡ください。

農業収入の向上を図ろう

農業用井戸の設置等の費用を支援しています!



農業収入の
向上を図ろう

和歌山市

和歌山市野菜等産地化事業

事業概要

さく井工事費用助成

受付本数

25本（先着順です）

対象者

下記の項目全てに該当する方。※2本以上申請する場合は、追加要件があります。

- ①和歌山市で農業用井戸を掘る農地の面積が1,000㎡以上
- ②販売農家又は販売農家になると見込まれる方
- ③新設等した農業用井戸を活用し、野菜等の生産拡大を目指す方

補助金額

最大50,000円（補助対象経費の実支出額の50%。1,000円未満切り捨て）

※補助対象経費とは、農業用井戸のさく井工事に直接必要な経費です。

ポンプなどの附帯設備に要する経費は対象となりません。



詳しくは和歌山市産業交流局農林水産部農林水産課（073-435-1049）まで

市HPはこちらから

JAわかやま

農業用灌水ポンプ助成事業

事業概要

ポンプ購入費用助成

対象者

JAわかやまの組合員で、和歌山市のさく井工事費用助成を受け井戸を設置した方。

※実施主体あたり1基の受付けとなります。

補助率

最大50,000円（購入費用（税抜き）の50%）

※JAで購入したものに限りません。

詳しくは最寄りの営農センターまで



双子座
5/21~6/21

全体運
健康運

●高め安定運。ルーティンワークの効率アップを図りましょう。余裕が生まれ、いい思い付きがありそう。旅行が吉。
●足裏マッサージでリラックス。音楽鑑賞も◎。 幸運を呼ぶ食べ物 ●シカクマメ